
ストロー四センチ

とび

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ストロー四センチ

【Nコード】

N2684E

【作者名】

とび

【あらすじ】

工藤新一（14）の、青春な日常の一コマ。

新一達が中学校に入って二度目の夏は、六月になったとたんが始まった。

暦がめくられたのを知っているかの如く急に蒸し暑くなった氣候に、新一は早くもウンザリしていた。

特に校舎内は最悪だ。逃げ場を見失った湿気が身体に纏わり付いてくる。

昼休み。弁当を食べ終わった新一は、階段横の自販機でオレンジジュースを買った。ひんやりと手のひらに乗る、小さな紙パックが今は何よりも愛しい。

その場でストローをパックに挿し、中身を喉に流し込んだ。

「……うめー」

程よい酸味のオレンジジュースが、火照った身体にしつとりと染み渡る。

ふう……と息をついて、更に一口と、新一がストローに口を付けようとした、その時だった。

「もーらいっ!」

弾んだ蘭の声と共に横からニュツと出てきた手が、新一からオレンジジュースを奪い取った。

驚いた新一がそちらを向くと、時すでに遅く。蘭は新一から奪ったオレンジジュースを飲んでいる。

さっき新一が使ったストローを、何の躊躇ちゅうちゆもなくくわえて。

何か言おうとして何も言えない新一をよそに、蘭は「おいしー！」と満面に笑みを浮かべた。夏用の白い制服が眩しい。

「な……何すんだよオメーは！」

「ゴメン。でもいいじゃない、一口くらい」

「そうじゃなくて！ さっきまでソレ、オレが飲んでただろーが！」

「もう。一口くらいでゴチャゴチャ言わないでよ、男のくせに」

「だーかーらー！」

「何？」

間接キスになんだろーと言いたいの、キョトンとしている蘭を見ていると言えなくなる。幼なじみという気安い関係のせい、蘭はそんな事など全く意識していないようだ。

（くそ、何かムカつくな……）

新一はガツンと言ってやる事にした。

「いいか！ つまりだな……」

蘭の両肩を掴み、怪訝そうに眉をひそめた彼女を真正面から見据える。

「オレは……！」

「うん、オレは？」

いい機会だ、この際全部言ってしまうおう。

なぜ蘭がそのジュースを飲んだらいけないのか、そしてなぜ間接キスはマズイのか——それらの問いに対する、答えを。

（オレは、蘭が好きだから
だから間接キスなんかじゃなく、ちゃんと――）

「オレは！ オレ、あの……あー………」

「何？」

「えっと、そのジュースはオレが買ったもんだろ？」

「うん」

「だから、飲んだ分の金払え！」

新一は思ってもいない事をガツンと言ってしまった。

「……………」

「……………」

昼休みの喧騒からズレた変な沈黙が二人を包む。遠くの教室から聞こえる笑い声が、何だか物哀しい。

「……セコ」

呆れたを通り越して少し切なそうな顔をした蘭は、十円玉を添えたオレンジジュースを新一に返してきた。

「違う！ ちょっと待て、そうじゃなくて……」

「ゴチソウサマでした」

きびすを返した蘭が、スタスタと遠くなる。

新一の手には、まだ微かに冷たいオレンジジュースと十円玉が残された。

十円玉は返すとして、問題はこのジュース……というよりストロ―だ。

廊下を歩きながら、新一は悩んだ。さっき蘭が口付けたストローを、このまま使っていていいものかどうか。本音はとりあえず脇に置いて。

モヤモヤした湿気と、モヤモヤした頭の中。

悩んだまま教室に着き、新一は結局、ストローの先端をハサミで四センチ程切ってから使う事にした。

ちょっと温くなったオレンジジュースは、いつもより少し甘酸っぱい……

そんな、工藤新一・中学二年生の初夏の一コマ。

(後書き)

お久しぶりです とびです。

ここまで読んで頂き、ありがとうございます☆

しかし、この後書きにはたいした事は書いてありません。ごめんなさい。

とりあえず、ストローを四センチも切ったら飲みにくいだろうな……ってコトを、書き終わってから気付きました。まあ、飲めないコトはないでしょう。

それでは

次はいつになるか分かりませんが、また次回もお会いできれば幸いです♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2684e/>

ストロー四センチ

2011年1月26日15時36分発行